

「人間の尊厳をふみにじるもの」— 怒りの中スタートした後期高齢者医療制度

# 世論と運動広げて、廃止させましょう!



1日、港区で廃止を訴え

多くの国民の反対を押し切って4月1日からスタートした後期高齢者医療制度。実施の強行は、国民と医療機関に混乱と犠牲を強いていきます。富田なおき事務所が話をうかがった新宿区内のA診療所でも、深刻な事態が浮き彫りになっていきます。

## 実施強行で、国民と医療機関に混乱と犠牲

保険証が届かない、見当たらない...

書留郵便で送られた保険証は、受取人が不在の場合、郵便局は持ち帰ることになります。そのために、新宿区では4月7日時点でも、保険証が479人に届いていません。

また、受け取っていても何のことがわからず、ほかの郵便物にまぎれたりして、受診するのに「保険証がない」と言って医療機関の窓口を訪れる高齢者もいます。

A診療所では、「自宅からそれらしいたくさん書類を持ってきてもらい一緒に探したが、それでも見当たらないこともある」といいます。

一方、保険証を受け取った人も、保険料の通知はまだなので、「いったい保険料はいくらになるのか?」と不安が広がっています。

「どうして夫婦が別々の保険に別れなければならないのか?!

長年、土建国保に加入していたBさん夫婦は、夫が75才、妻が71才です。夫は後期高齢者医療保険に移行させられました。一方、妻は土建国保に残ることもできず、国民健康保険に入るか子どもの扶養になってその健康保険に

入るか判断がつかず、無保険の状態です。4月1日を迎えました。「いろんな病気になった夢までみるようになった」と苦しんでいます。



対応に追われる診療所の受付

これまで自分の健康保険に入っていた親が、強制的にはずされたと、若い世代にも波及が広がっています。

「末期医療保険証を持ってきました!」  
「今は怒る時、切れる時だ!」

政府は、あまりにも評判の悪い制度を、名称だけ「長寿医療制度」に代えて、国民の怒りをやわらげようと躍起です。

しかし、怒りをこめて「末期医療保険証を持ってきました!」と診療所にやってくる患者さんや、「今は怒る時、切れる時だ!」と待合室で討論会が始まるなど、廃止を求める声は日に日に高まっています。

反対署名は全国で500万、医師会にも反対運動広がる

撤回を求める署名は全国で500万を突破し、茨城県医師会がピラやポスターを作成して撤回運動を展開するなど、反対運動は医師会にも広がっています。野党4党は1日、あらためて廃止へ全力をあげることを確認しました。

日本共産党は、中止・廃止を求める新たな署名にとりくんでいます。一刻も早く廃止させるため、共同の力を広げましょう。

中止求め1万2千人が集まった「3・23東京大集会」。参加者は「いのち」と書かれた紙を掲げてアピール。写真は、新宿社保協のみなさんと。



日本共産党衆議院東京1区若者相談室長

# 富田なおき

事務所ニュース

3 2008.4.13

発行：富田なおき事務所

〒162-0065 新宿区住吉町11-25

TEL 03-3357-3392 FAX 03-3353-4912

E-mail:tomita-naoki@nifmail.jp

富田なおきのホームページを開設しました

<http://tomita-naoki.web.officelive.com/>

(富田なおきブログもホームページからご覧になれます)

## 富田なおきの生いたち



小さいときから母がよく読みかせをしてくれた影響か本が好きで、小学2年のころから学校の図書室でどんな借りてきては読みふけていました。それも、まんが「日本の歴史」やまんが「伝記シリーズ」、学研まんがの入門シリーズなど、歴史や科学ものばかり。そんなものばかり

り読んでいては人格発達に影響があるかと心配した母は、那須正幹の「ズッコケ3人組シリーズ」などフィクションの本を買ってきてくれました。それから、シャーロック・ホームズや江戸川乱歩などの推理小説を多く読むようになりました。また、切手収集が趣味で、郵便局が大好きになり年中出入りしたり、テレビで相撲を見たり、友達と取ったりしました。

## 歴史もの、科学もの、推理小説、本が大好きな小学生

# 働く実態から政治が見える

### 東京1区の「日本をかえるネット」が青年のつどい



3月30日、千代田区内で東京1区の「日本をかえるネット」の青年のつどいが開かれました(写真左)。

青年がおかれた実情を次々と発言

「普通の青春を送りたい」という新聞奨学生の学生、「年々売り上げが悪化し、母がパートに」という自営の方や、「人が足りない。利用者の身体を拘束してしまう実例もある。低賃金、利用者の負担も大きい。事業所自体が経営難で派遣労働者を導入した。チームワークがうまくいかなくなっている」

「港区も千代田区のように介護施設に独自の助成をしてほしい、実情を聞いてほしいです」という介護職員、民間の営業の青年が働く実態を話しました。

また、就職活動中の学生が「弟の学費を自分が援助しないと進学できない。やりたい仕事をあきら



(写真は3月30日、新宿駅東口)

千代田・港・新宿で、青年たちといっしょに雇用問題を訴えました

めるべきか、本当に悩んでいる」と涙ながらに訴えました。

大学院生からも「博士課程に10万人いるが、国の助成をうけられるのは100人から200人程度。みんな研究をあきらめてやめていく。自分の研究室でも毎年行方不明になる仲間がいるんです」との話がありました。

派遣だった男性は「一握りの人しか正社員になれない。社会全体で企業が人を育てるシステムにしてほしい」と。まったく同感です。

手をつなぎ、声をあげて政治を変えよう

## 政治を変えよう

私は、この間各地で若い皆さんから聞いた実態、キャンオンやいすゞなどで直接雇用、正社員化をかちとっている実例を紹介し、ばらばらにされ、「自分が悪い」と思わされている一人一人が手をつなぎ、声をあげて政治を変えれば必ず現実を変えられる、と力説しました。

## イラク戦争やめよ!

### 3・20中央集会

港区・芝公園

いつわりの理由で始めたイラク戦争。この5年間にイラク人の犠牲者は100万人ともいわれています。米兵も4千人が犠牲に。戦争でテロはなくなりません。これ以上、アメリカへの追従は許されません。

集会後、港のみなさんといっしょに、雨の中をパレードしました。



## 人間として誇りを もって生きたい!

### 東京生存権裁判が結審

生活保護の老齢加算が廃止され2割も減額されたのは憲法25条・生存権に違反する、元に戻せと訴えた東京生存権裁判が、3月24日に結審しました。

「支える会」の一員として支援の宣伝に参加し、裁判を傍聴しました。写真中央は原告団長・新宿区百人町在住の横井邦雄さん。判決は6月26日です。

